細菌性髄膜炎予防ワクチン

2010.03.21

細菌性髄膜炎という病気をみなさん知っていますか？細菌性髄膜炎というのは、何らかのきっかけで細菌が体の中、特に血管の中に入って増え、それが脳の近くの髄膜というところに付いて更に増えて神経の異常をきたす怖い病気です。細菌性髄膜炎は年齢によって起こしやすい菌が違いますが､乳幼児期に一番多いのはインフルエンザ桿菌ｂ型(略して Hib)、その次に多いのは肺炎球菌という細菌です。この病気になる事自体は非常にまれです。症状は発熱、嘔吐、頭痛など風邪と同じようなもので始まり、発見が遅れると意識の低下や痙攣といった重篤な症状がでてきます。この病気を早期に発見することはベテランの小児科医でもとても難しく、なんとなく元気がない、ミルクの飲みが少し変、機嫌が悪いなど、あとから考えるとそういえば・・・と判るくらい些細な症状の積み重ねや、熱が続いたためにとった採血で疑われることが多く見受けられます。子どもの場合、細菌性髄膜炎が発症すると、20 人に一人は亡くなり、4 人に一人は神経系の障害を残すなど、親にとっても小児科医にとっても是非とも予防できるものであれば予防したいと考える病気の一番です。

幸いなことに 2008 年 12 月から Hib に対するワクチンが始まり、2010 年 2 月から肺炎球菌に対するワクチンもできるようになりました。Hib ワクチンは 2009 年 3 月頃から供給が厳しくなり予約しても半年以上待たされることが続いていましたが、今年に入ってすこしずつ待ちが短くなりつつあります。肺炎球菌ワクチンは今のところ供給は順調ですので、Hib ワクチンを待っているお子さんでも先に肺炎球菌ワクチンを打っておいてください。それぞれのワクチンの値段は各医療機関で違いますが、いつも見ている先生のところで打つのがベストでしょう。ワクチンを始める月齢によってワクチンの打ち方が違いますので、かかりつけの先生とよく相談してください。2 つのワクチンを打って、細菌性髄膜炎という恐怖から自分の子どもを早く解放してあげてください。